

地域産業特化型センターの配置（県内3箇所）+地域協働センターの設置（県内9箇所）

2008年 南予水産研究センター（愛南町）

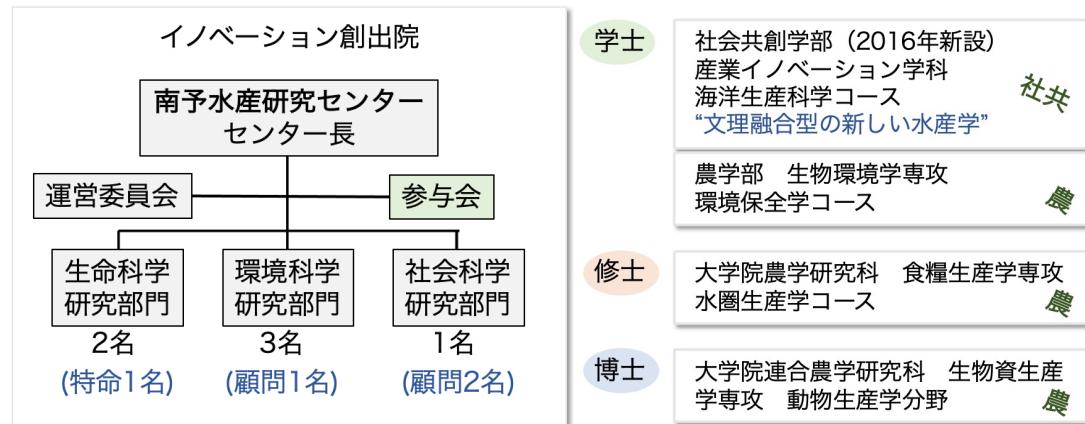
2014年 紙産業イノベーションセンター（四国中央市）

2025年 今治サテライト（今治市）

参考資料1

「地域産業+研究センター+教育コース」の
三重構造で、「社会基盤を支え、地域の発展
を牽引する」

南予水産研究センター 組織と教育



- 宇和海沿岸は豊かな漁場であり、地理的に優位（リアス海岸で波穏やか、養殖施設の設置が容易であり、急潮による間欠的な海水交換や底入り潮による良質な栄養塩の供給）
- 愛媛県南予地域は、**全国トップの養殖生産地**である
- 水産業においては、少子高齢化による担い手不足、漁村の衰退等が顕在化
- 17年前に地域の強い要望のもと、愛南町に地域密着型水産研究センター（南水研）が誘致された

地域に根ざした実践的教育 社会での即戦力となる人材育成

愛南在住 教員5名、特命教授1名、職員9名、
学生+院生22名、留学生1名（2026年1月現在）



藻場の再活動にて



授業の様子

参考資料2

P1

地域と連携した研究体制とその成果



生命科学

スマ育種完全養殖の技術開発

2012年度 文科省地域イノベーション戦略支援事業
2017年度 文科省地域エコシステム形成プログラム



南予水産研究センター（親魚養成・選抜）



愛媛県水産研究センター（種苗生産）

地域と連携 →



世界初マグロ類の育種に成功!!

愛媛大学育種完全養殖系統「南水1号」：高成長、低温耐性、歩留向上。
有害物質底蓄積系統の選抜に挑戦中。

文科省大型予算、農水省の研究予算、科学研究費補助金等の支援を受けた。今後は本格的な産業化に向けた取組みが不可欠である。

選抜初代



完全養殖選抜4世代



添付資料3

環境科学

赤潮・魚病早期検出システムの構築

2010

養殖海域からの有害赤潮プランクトン高感度検出法の開発および情報発信システムの構築（愛南町との共同研究開始）

2011

愛南町養殖海域での高感度赤潮モニタリングおよび愛南町水域情報ポータルによる赤潮・環境情報発信開始（～現在）

→生産者へ赤潮情報を迅速に発信、早期対策へ
魚病早期検出システムに関する研究開始

2017

You see U-sea宇和海海域情報サービスの構築
(愛媛大南水研、理工学研究科、CMES、愛媛県水産研究センターの共同研究)

→赤潮・海域情報発信の広域化（愛南町→宇和海全域へ）

2019

宇和海水温情報システム運営協議会設立（愛媛県、宇和海沿岸域5市町、宇和海海域漁協団体、大学で設立）
→水温情報システムを宇和海水産インフラとして恒久的に維持する体制の確立

現在

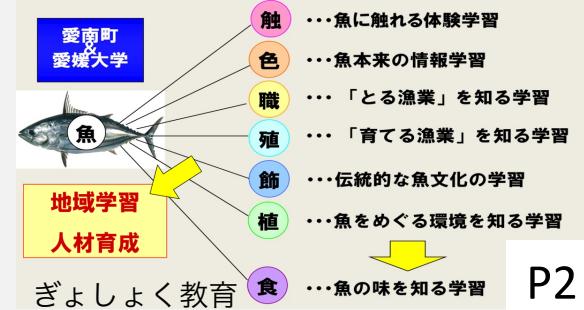
環境DNA・RNAを用いた赤潮・魚病診断と防除技術に関する研究を展開中

添付資料4

社会科学

「ぎょしょく教育」の発祥の地、愛南町

20年間におよぶ愛媛大学と愛南町の「ぎょしょく教育」と水産庁“海業”の連携による地域経済活性化に向けた新たな展開



P2

レジデント型研究施設は人材育成のハブとなる ～南水研はレジデント型研究の先行モデルとして注目～



1. 南水研はレジデント型研究施設として機能している
2. 実践的研究・教育を通じて、シビックプライドが醸成される
3. 学生は大学外のネットワークを構築し、地域と深く関わる
4. 地域の課題を自身の課題として認識するようになる
5. キャリアビジョンが描けるような環境で教育研究を行うことが必須



- ・卒業生が専門人材として地域に定着（地域が人を育てる）
(卒業生138名中、15名が愛南町、11名が宇和島市で就職)
2026年4月の見込み
- ・南水研は地域のハブであり、卒業生にとっての第二の故郷
- ・学際的なトランスレーターとしての機能

南水研のレジデント型モデルの全国展開を目指す

南水研のレジデント型研究を継続し発展させるとともに
その効果を地域の高等学校や様々なステークホルダーと広く共有し、
普及・展開へと貢献する

参考資料5、6

宇和海に関する過去・現在の膨大なデータや公的なデータをもとに、
未来の海洋環境を高度に予測し、水産業を振興していくための
挑戦的研究を始動

参考資料7

課題：レジデント型研究センターと両輪となり研究開発に取り組む
企業の創出と地域に定住する専門人材の受け皿が不可欠

“地域水産業（食糧生産）の担い手確保が急務”



地域文化（祭り等）の担い手



広報
あいなん
ainan

新たに9人の学生が
水産業の発展に向けて研究に取り組みます

町水産業の発展と活性化に期待

今年度、南予水産研究センターにやがてきた学生たちは、これから約2年間、町内で生活しながら赤潮問題や養殖品種の開拓など、現場の課題やニーズに直接反映できるような研究をしていきます。また、地域イベントにも積極的に参加しており、その若さには地域の活性化にもつながっています。

6月30日㈫に役場本庁にて行われた新規学生あいなつ訪問では、学生を代表して木村雅太さんが「海洋環境や養殖技術等さまざまな分野から水産業の今後の発展、活性化について研究を行ってみたい、研究だけでなく私生活やボランティア活動などでもお世話になりますのでよろしくお願いします」と話しました。中村緑伯町長から、「愛南町は第一産業を主とした自然豊かなところ。このフィールドを十分活用してもらいたい。また地域の方ともふれあい、充実した生活を送ってほしい」と歓迎の言葉が送されました。



愛媛県南予水産研究センターとは...

南予地域の水産業の活性化を図るため、町と愛媛大学が連携し平成20年に設立された水産研究機関で、町内には鮎越ステーション、西浦ステーションの2拠点があります。

愛南町町長表敬訪問の様子 P3

地域密着型研究センター（地域産業特化型研究センター、地域協働型センター）の展開

－ 愛媛大学方式 「地域の特性に応じて、地域産業特化型研究センター、地域協働型センターを配置し、地域に密着した中核機能を愛媛県内全域で発揮し、地域産業イノベーションと地域活性化に責任をもつ」 －

参考資料1
2026年1月現在

The map illustrates the locations of several research centers across Ehime Prefecture:

- 今治サテライト + 教育コース** (今治市: 地域産業特化型研究センター/地域協働型センター)
NEW
- 紙産業イノベーションセンター + 教育コース** (四国中央市: 地域産業特化型研究センター)
- 地域協働センター西条** (西条市: 地域協働型センター)
- 南予水産研究センター + 教育コース** (愛南町: 地域産業特化型研究センター)
- 地域協働センター南予** (西予市: 地域協働型センター)
- 先端農業R&Dセンター** (旧植物工場研究センター) (宇和島市)
- 地域協働センター中予** (東温市、松山市: 地域協働型センター)
- 防災情報研究センター**
地域共創研究センター
四国遍路・世界の巡礼研究センター
俳句・書文化研究センター
食品健康機能研究センター (松山市)
- 森林環境管理学リカレントプログラム** (農学研究科) (久万高原町キャンパス)

今治サテライト + 教育コース (今治市: 地域産業特化型研究センター/地域協働型センター)

- 海事産業特別コース（令和8年度設置）
- 「Town&Gown構想」推進

紙産業イノベーションセンター + 教育コース (四国中央市: 地域産業特化型研究センター)

- 専任教員6人（うち5人が現地常駐）、
大学院・学部学生18人、企業からの研究員13人
- 愛媛県との連携（県の紙産業技術センター建物の一部及び実験装置等を無償借用、同じ敷地に本学の新棟を設置、共同研究実施中）
- 地元紙産業界との連携（地元企業との共同研究実施中、企業の研究者を大学院学生・研究員として受入）
- セルロースナノファイバーの新規利用方法の開発（機能紙の開発、軽量高強度材開発）
- 医療診断・簡易検査キットの開発
- 製紙スラッジ焼却灰を有効活用した製品開発（産業から安心・安全な製品を開発）

地域協働センター西条 (西条市: 地域協働型センター)

- 専任教員1人、兼任教員28人
- 全学部が参画し、多様な分野で様々な取組を展開
- 西条市との連携（西条市地域創生センターの建物内に設置）
- リカレント教育プログラム開講、高大連携活動、産学官連携、農業の6次産業化支援、フィールドワーク・インターンシップ、就職活動、修士課程授業

南予水産研究センター + 教育コース (愛南町: 地域産業特化型研究センター)

- 専任教員6人（うち5人が現地常駐）、特命教員2人（うち1人が現地在住）、
大学院・学部学生22人、留学生1名、地域特別研究員14人
- 2つの活動拠点（船越ST、西浦ST）：愛南町からの提供（旧庁舎・旧校舎を町が改修後に無償借用）
- 持続可能なえひめ水産イノベーションシステムの構築：県・町・漁協・養殖企業の連携（文科省、農水省関係）：①愛媛県：新養殖魚種スマ（全身トロ）の完全養殖技術と流通システムの開発②愛南町、愛南・久良漁協、地元養殖企業：ICT活用による赤潮・魚病対策技術の開発と活用、海業による漁村の活性化

地域協働センター南予 (西予市: 地域協働型センター)

- 兼任教員28人
- 全学部が参画し、多様な分野で様々な取組を展開
- リカレント教育プログラム開講、高大連携活動、人口減少問題、鳥獣害対策、空き家問題、公共交通網維持、柑橘産業

先端農業R&Dセンター (旧植物工場研究センター) (宇和島市)

- 兼任教員24人
- 全学部が参画し、多様な分野で様々な取組を展開
- 医療、健康産業、観光・サービス産業リカレント教育プログラム開講、地域計画

南予水産研究センター

沿革



南水研のミッション：大学の先端的研究力を駆使して、地域産業への貢献を果たす

南水研の水産拠点連携

2007

新町建設計画（平成15年2月策定）に基づき、愛南町は
平成19年愛媛大学に水産研究センター設置を要請

2008

漁場の環境調査、水産養殖技術の開発、「ぎょしょく教育」の普及推進等の実績をもとに設立（施設は愛南町が旧町役場を改修し、無償貸与）
平成20年 社会連携推進機構所属 南予水産研究センター設立（現在船越ステーション）

2012

文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム」採択 2012-2016
5名の若手研究者を招聘し研究力向上



2013

教職員、学生増により愛南町は旧西浦小学校を改修し、愛媛大学に無償貸与
平成25年西浦ステーション開設（大型飼育棟新設）



2016

愛媛大学 社会共創学部を新設
海洋生産科学コースの学生が愛南町で学ぶ



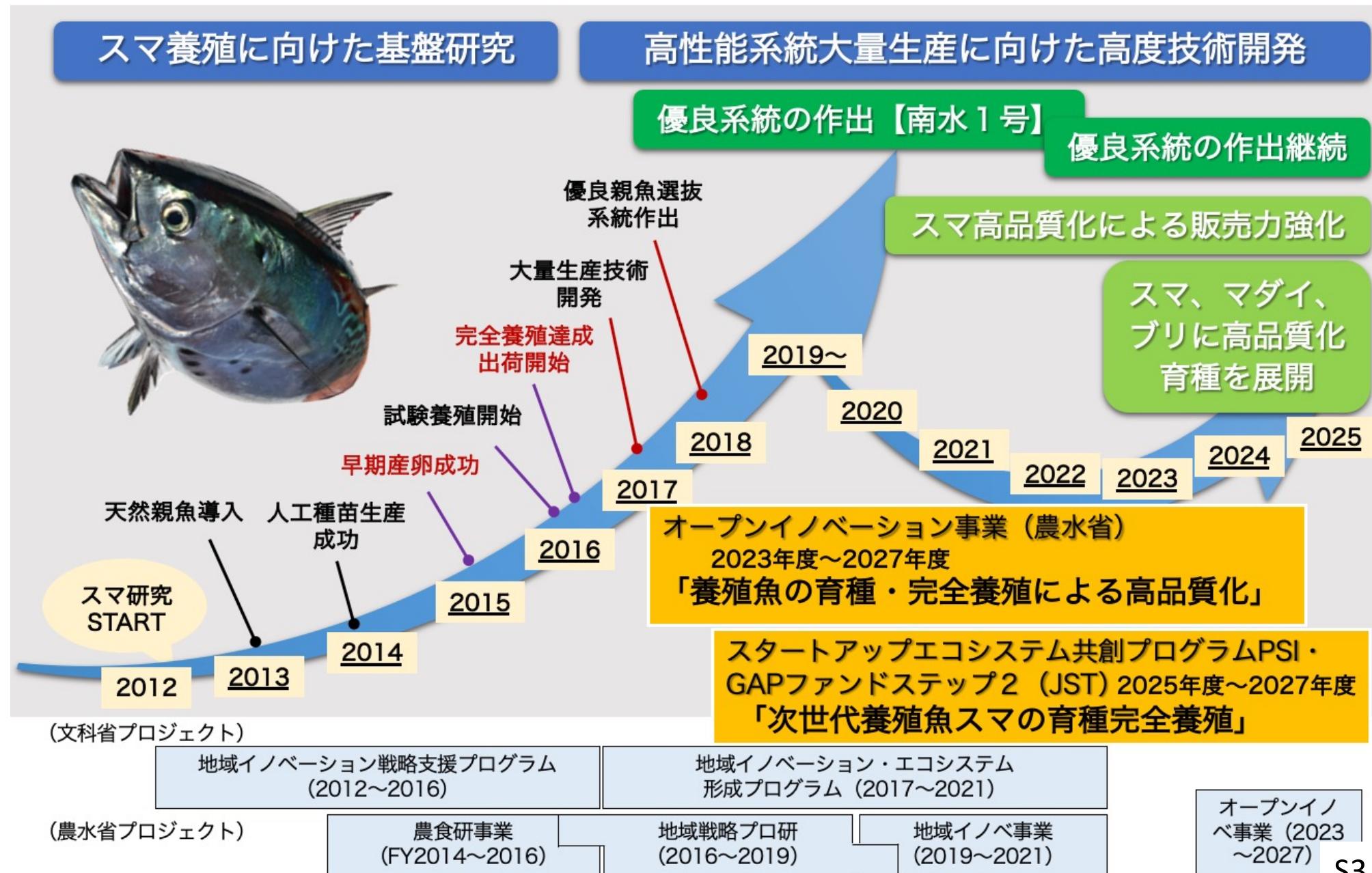
2017

文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」採択 2017-2021
研究開発・成果の産業化に向けた取組み

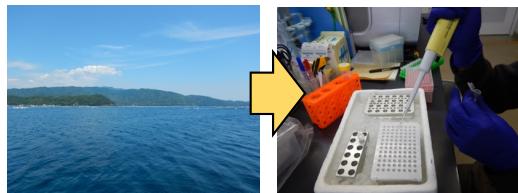
2024

愛媛大学 機構改革
イノベーション創出院新設 同院に所属

スマ育種－完全養殖技術開発の流れ



赤潮・魚病早期検出システム および環境に関する研究



文科省 農水省 総務省



1984

宇和島湾浅海養殖漁場環境調査開始（遊子漁協からの依頼）
当初：学部横断的取組（理工農）～CMESの前身

1999

宇和島湾調査グループを基に沿岸環境科学センター(CMES)設立

2008

南水研設立

養殖海域からの有害赤潮プランクトン高感度検出法の開発および情報発信システムの構築（愛南町との共同研究開始）

2010

愛南町養殖海域での高感度赤潮モニタリングおよび愛南町水域情報ポータルによる赤潮・環境情報発信開始（～現在）

→生産者へ赤潮情報を迅速に発信、早期対策へ
魚病早期検出システムに関する研究開始

You see U-sea宇和海海域情報サービスの構築

（愛媛大南水研、理工学研究科、CMES、愛媛県水産研究センターの共同研究）
→赤潮・海域情報発信の広域化（愛南町→宇和海全域へ）

2011

2017

宇和海水温情報システム運営協議会設立

（愛媛県、宇和海沿岸域5市町、宇和海海域漁協団体、大学で設立）
→水温情報システムを宇和海水産インフラとして恒久的に維持する体制の確立

2019

環境DNA・RNAを用いた赤潮・魚病診断と防除技術に関する研究を展開中

南予水産研究センター これからの展開

水産を牽引する国内随一のレジデント型研究へステップアップ

南水研のレジデント型研究を継続し発展させるとともに
その効果を地域の高校学校や様々なステークホルダー
と広く共有し、普及・展開へと貢献する

地域での大学教育
地域に専門人材を次々に輩出、産業の担い手の確保

CMESの前身となるグループが1984年から
宇和海の漁場環境調査
農学部が2005年
からぎょしょく教育を開始



2025年度新規取組事例

- 地元水産系高校との連携を強化
- MOTE海洋研究所との連携開始

課題先進国
日本から世界へ



新規プロジェクト (FY2025-2028)

- 「次世代養殖魚スマの育種完全養殖」
(スタートアップ・エコシステム共創プログラムPSI・GAPファンド2に採択)
- レジデント型研究を持続・発展させるためには、南水研と両輪となり研究開発に取組む地元企業の創出が不可欠

レジデント型研究先進地

MOTE海洋研究所（米国フロリダ州）をベンチマークに独自スタイルを展開 S5

これまでの活動を有機的につなげて 地域と共に成長する場所と機会を作る



【研究交流会の趣旨】

水産や地域活性化に携わる人々のネットワークを広げ、将来の地域の発展に向け、共に成長する機会

主催 愛媛大学南水研

共催 愛南町、愛南漁協、久良漁協、愛媛県水産研究センター

高大連携で関わった研究課題、大学生の卒論・修論発表
地域特別研究員による研究、地域の取組や活動など

2023年
発表24演題
総参加数105人

増加

2024年
発表26演題
総参加数138人

増加

2025年
発表38演題
総参加数179人

2025年には、南予5高校→7高校、中学校や近隣大学からの発表が加わり大盛況！！

主な参加者

*他にも県外からも参加者あり

愛媛大学南水研、社会共創学部、松山大学、南宇和高校、宇和島東高校、宇和島南高校、宇和島水産高校、長浜高校、愛南町、宇和島市、愛媛県水産研究センター、愛南漁協、久良漁協、複数企業、南水研リカレント講座受講生、保護者など

第4回は2026年2月11日（水）開催決定!!

第3回 南予水産・地域研究交流会

2025年 2月11日(火・祝日)

場所：御荘文化センター（愛媛県愛南町御荘平城 3063-1）

9:00～ 受付開始
9:50～ 開催挨拶
10:00～ One Minute PR
10:30～ ポスター発表（前半）
11:30～ ポスター発表（後半）
12:45～ ベストポスター賞発表
13:00～ 閉会挨拶
14:00～ 南予水産研究センター見学（希望者のみ、要事前登録）
主催：愛媛大学南予水産研究センター
共催：愛南町、愛南漁業協同組合、久良漁業協同組合

お問い合わせ：
事務局：南予水産研究センター
email: nanyo_ko@stu.ehime-u.ac.jp
TEL: 0895-73-7112
Web: http://ccr.ehime-u.ac.jp/cnf/

Scan me

高校生・大学生・一般による研究ポスター発表会を行います。
中高生から大人まで、ぜひご来場ください！

グローカルな視点で新たな挑戦

宇和海に関する過去・現在の膨大なデータや公的なデータをもとに、未来の海洋環境を高度に予測し、水産業を振興していくための挑戦的研究を始動

県内漁協

「水産庁事業：スマート水産業普及推進事業」
生産状況や養殖環境等のスマート化に関する情報提供（スマート化を導入した養殖企業のデータを共有）

Mote海洋研究所



MOTE RESEARCH
Beach Conditions Reporting System



Aspen Cook
Senior Environmental Specialist, BCRS Operations Supervisor



海色など沿岸環境の広域情報システム（BCRS）の愛南海域導入に向けて連携（アジア初）

愛媛大学 南水研 生命科学・環境科学・社会科学部門

- 過去の詳細な赤潮・魚病・環境などの膨大なデータを管理
- 養殖魚の生理的なデータ分析技術
- 卒業生を介した地域ステークホルダーとの強固な連携

環境保全型養殖

訪問型研究者との連携 (研究機関や企業など)

量子コンピューター技術など最先端テクノロジーを導入し、高度なAI予測システム構築に取り組む

豊かな漁場 宇和海

宇和島市

全国トップクラスの
養殖生産地に立地
マダイ、ブリ、真珠
養殖など

南予水産研究センター

・愛南町

西浦ST

船越ST

愛南町

沿岸環境情報、魚病・赤潮プランクトン発生情報などの継続的なデータの共有